

私の生き方、働き方



取手市取手北相馬保健医療センター医師会病院 放射線科 診療放射線技師 | 伊藤浩子

仕事編

1 Q 診療放射線技師を目指したきっかけ

A 小さい頃は怪我ばかりしている子供で、よく近所の整形外科にお世話になっていました。そこで診療放射線技師という職種を知りました。

高校生で進路を決める際、なるべく手に職を付けられる道に進んでほしいという親の方針で思い当たったのが看護師と放射線技師の仕事でした。

まだその当時、女性の放射線技師は増えつつありましたが今ほど多くなかった為、どちらかというと女社会よりも男社会の中で働く方が自分に向いているかな？と思って進路を決めた事がきっかけです。

2 Q やりがいを感じるとき

A 自分が携わった検査が病気や怪我の発見、診断に貢献できた時はホッとするとともに、充足感や診療放射線技師として成長できているのかなと感じてこの仕事を続けるモチベーションにしています。

以前、検診で自分がマンモグラフィを撮影した方に「あなたのおかげで病気見つかったの。今は母娘で(マンモグラフィを)受けているんです～」と声をかけていただいた時はとても嬉しかったのを覚えています。

3 Q 診療放射線技師免許以外の資格について

A 「マンモグラフィ撮影認定技師」と「胃がん検診専門技師」です。

マンモグラフィ撮影認定技師は、診療放射線技師になって初めての職場でマンモグラフィを導入する事が決定した為、資格を取得することになりました。

立ち上げから携わってきた事、また資格を取得したことにより、よりマンモグラフィ検査についての知識を深めることができたと思っています。

胃がん検診専門技師の資格は、診療放射線技師として勤め始めてから母親を胃がんで亡くした事がきっかけです。もし自分が見落としたせいで手遅れになる方がいたら…という恐怖を抱くようになり、まずは胃がんについてしっかり勉強に取り組もうと思い取得に至りました。

4 Q 仕事との向き合い方

A 子供の頃から家庭を持っても持たなくても社会との関わりを絶たず、働く女性であることにあこがれを持っていました。

実際、診療放射線技師として勤めてみると自分はそそかしい為、ミスをすることも度々ありました。撮影技術もあまり向上せず怒られるばかりで、自分の中でフィードバックして失敗をなくしていくこうとするものの、ミスが致命的になる可能性が高い医療職は向いていなかったかも、診療放射線技師をやめて命とかかわらない職種についているが良いかもとマイナス思考に陥り、退職届を通勤バッグに忍ばせて思い悩んでいた時期がありました。

仕事の意欲もいよいよ薄れてきた頃、長年培った経験がある